

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C141	C153	17-309	慶應義塾大学 加藤眞三
題名(原題/訳)			
Biobehavioral effects of baclofen in anxious alcohol-dependent individuals: a randomized, double-blind, placebo-controlled, laboratory study. 不安のつよいアルコール依存症個人におけるバクロフェンの生物行動学的作用:無作為二重盲検プラセボ対照試験。			
執筆者			
Farokhnia M ¹ , Schwandt ML ² , Lee MR ¹ , Bollinger JW ¹ , Farinelli LA ¹ , Amodio JP ¹ , Sewell L ² , Lionetti TA ³ , Spero DE ³ , Leggio L ^{1,4} .			
掲載誌			
Transl Psychiatry. 2017 Apr 25;7(4):e1108.			
キーワード			PMID:
アルコール依存症、バクロフェン、不安			28440812
要旨			
<p>バクロフェンはアルコール使用障害のための潜在的な薬物療法であることが示唆された。しかし、臨床データでは矛盾している結果が報告されている。我々は不安の強いアルコール依存症を対象としてバクロフェンの生物行動学的作用を調査した。</p> <p>本研究は高度な不安特性をもつアルコール依存症個人(N=34)で探している非治療の無作為二重盲検プラセボ対照の人を対象とした研究室レベルの試験である。参加者は少なくとも 8 日間のバクロフェン(1 日につき 30mg)またはプラセボを投与され、アルコール中毒反応性とそれに続くアルコール投与手順(アルコールプライミング、次いでアルコール自己投与)からなる実験的セッションを行った。自己管理のアルコールの総量は主要項目であった; アルコール熱望、主観的な/生理的反応と気分/不安症状も評価した。</p> <p>アルコール自己管理している間の消費されるアルコールの総量に対する薬物の有意な効果はなかった(P=0.76)。バクロフェンはプライミング中の最大呼気アルコール濃度とアルコール消費量との間の正の関連を鈍らせた(有意な相互作用、P = 0.03)。酔っていると感じる評価は、プライミングする準備刺激飲物(P=0.006)を消費した後に、バクロフェン群で有意に高かった。自己管理セッションの間に、バクロフェンは高揚を感じる(P=0.01)および酔っている(P=0.01)と感じる評価を有意に増加させた。心拍数の有意の減少(P < 0.001)と拡張期血圧の増加傾向(P=0.06)は、アルコール検査室セッションの間にバクロフェン群でも検出された。</p> <p>結論として、バクロフェンは心配性のアルコール依存症個人で飲酒への主観的および生理的反応に影響を及ぼすことが示された。これらの結果はバクロフェンの抗熱望または抗強化性の作用をサポートせず、バクロフェンがむしろアルコール摂取障害のための置換薬物として作用する可能性があることを示唆する。</p>			